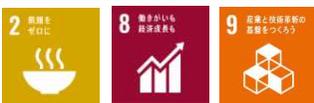


留萌港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども留萌港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、留萌港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



農水産物輸出促進の取組

2017年5月、道内の6港湾管理者らが策定した「農水産物輸出促進計画」が、全国で初めて国土交通省港湾局長から認定され、水揚連携港湾である増毛港においては、サケ等の海外への輸出促進を図るため、屋根付き岸壁を整備しました。

※農水産物輸出促進計画:新たな成長分野として見込まれる農水産物の輸出増加に対応するため、国土交通省では戦略的に輸出に取り組む港湾において、農水産物の輸出促進に資する施設の整備を支援し、輸出促進を図る制度を創設しました。



基幹産業の持続的な発展を支える

留萌港は、港内に侵入する来襲波により泊地が擾乱するため、防波堤整備により、荷役作業や船舶航行の安全を確保します。

天塩港では良好な砂を積み出しており、主に石狩湾新港を經由して札幌圏で使用され、北海道新幹線工事や北海道ポールパークFビレッジ建設等で用いられるなど大規模な建設事業の骨材需要を支えています。現在、留萌港湾事務所では砂運搬船が安全に入出港できるよう浚渫(しゅんせつ)工事を実施しています。



離島における産業と暮らしを守る

羽幌港は、離島である天売港、焼尻港との唯一の交通手段であるフェリーが就航しているほか、周辺海域は武蔵堆と呼ばれる好漁場となっており、離島の生活や観光、漁業などの基幹産業を支えています。現在、留萌港湾事務所では付近を航行する漁船が利用する物揚場の整備を進めております。

